

ワケ カタチには理由がある(ワ)

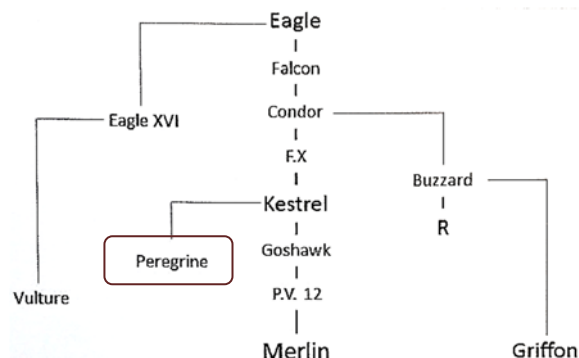
Shape follows Function & Taste

～ウェストランド・ホワールウインド(Whirlwind) Mk.I



ペリグリムエンジンの開発位置→

(出典：「Rolls Royce Merlin Engine - Owner's Workshop Manuals」 Haynes Publishing)



本機ホワールウインドは、1939年に初飛行した、英国空軍の双発戦闘機です。当時、世界的な双発戦闘機ブームがあって、この機体もその流れから製作されたものです。上の模型では再現されてませんが、細長く、一見高翼面荷重に見える主翼には、前縁スラットとファウラーフラップが装備され、空力的に大きな工夫があった機体です。残念ながら、小型マーリンエンジンと言うべきペリグリムエンジンのポテンシャルの低さから傑作機になれませんでした。低空での性能はとても良好だったので、失敗した他国の双発戦闘機とは一味違ったようです。エンジンナセルを突き出した細い主翼、垂直尾翼の上方に付けられた水平尾翼など実に個性的な外観で、一つ間違えるとバランスを崩しそうなデザインですが、とてもよくまとまっています。私の好きな日本酒の味に例えると玉旭の「デスペラート」みたいな機体ですw。デザイナーはデディ・ペッター。後に、ウェルキンや、会社を移籍してキャンベラやナットを設計した人です。本機のデザインには、既にその才能が現れていました。

【模型について】

チェコのスペシャルホビー(Special Hobby)のキットです。手軽に入手できるのは、エアフィックスのものかと思いますが、新しいキットだけあってモールドが良好で、要所にエッチングが使われています。主翼上面に燃料タンクの張出し表現があり(エアフィックスやパブラのキットにはない)、実機写真では一部の機体にはこの段差が確認できます。(中川裕幸 2022年8月)